

心理学

責 任 者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 16 時間 (8 コマ)
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

【学修方針】

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探究する学問である。心理学では人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものではあるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の歴史に沿って、心理学における基礎と応用の両視野を学ぶ。また学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、健康心理学、産業・組織心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きと行動への影響を考える。

本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付けることを目指す。また本科目の学修は、2年後期「医療面接の基礎」における知識と態度形成のための基盤となる。

【教育成果】

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。
2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。
3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探究するための視野を会得できる。

・学修目標

- 1) 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。
- 2) こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を獲得し、それに基づいた説明ができる。
- 3) 個人と他者、個人と集団の相互作用について理解し、説明できる。
- 4) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観への配慮をもち、行動することができる。
- 5) 自分の他者の「こころ」とこころの健康への興味関心を高く保ち、自他双方に配慮することができる。
- 6) 患者・患者家族の心理について理解を深め、その人のありようを尊重することができる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム、B-1-2 患者中心の医療、B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション、B-2-2 多職種連携、B-3-1 地域の保健・医療

・学修事項

- (1) 医療における患者の自律尊重
- (2) 他学生との協働やフィードバックを実践する
- (3) 患者・患者家族の心理
- (4) 全人的医療
- (5) 患者のナラティブ
- (6) ライフサイクル理論
- (7) 個性や価値観等の多様性・人間性を尊重する意義
- (8) 対人関係に関わる心理的要因
- (9) 心理的支援にかかわる関係者の職能の理解
- (10) 相手の意見を尊重しつつ自身の考えや感情を適切に伝えるためのコミュニケーション
- (11) 地域の保健・医療に関わる機関・組織
- (12) 地域住民のセルフケアにおける薬剤師の役割

・この科目を学ぶために関連の強い科目

医療のための社会・行動科学

・この科目を学んだ後につなげる科目

医療面接の基礎、チーム医療リテラシー

・講義日程

（矢）西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/21	月	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	心理学とその歴史 1. 心理学の誕生までの歴史を説明することができる。 2. 見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べるができる。 【双方向授業】【ICT(Mentimeter, WebClass)】 事前学修：教科書 1～12 ページを読む。 事後学修：WebClass の#1 ワークに取り組む。講義資料を復習する。
4/23	水	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	心理学でいう「学習」について 1. 心理学の「学習」の定義を述べることができる。

					2. 古典的条件づけについて説明できる。 3. オペラント条件づけについて説明できる。 4. 行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べるができる。 【双方向授業】【ICT(WebClass)】 事前学修：前回講義で出された課題に取り組む。 事後学修：WebClass の#2 ワークに取り組む。講義資料を復習する。
4/28	月	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	認知心理学-特に記憶について 1. 認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。 2. 記憶のモデルについて説明できる。 3. Miller の直接記憶範囲について説明できる。 4. 知覚的防衛について、説明できる。 【双方向授業】【ICT(WebClass)】 事前学修：前回講義で出された課題に取り組む。 事後学修：WebClass の#3 ワークに取り組む。講義資料を復習する。
5/1	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	社会心理学の視点から「集団」を考える 1. 認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。 2. 同調行動について、説明できる。 3. パーソナル・スペースについて、説明できる。 【ICT(WebClass)】 事前学修：教科書 182～195 ページを読む。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組む、結果のフィードバックを受ける。
5/7	水	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	臨床心理学の基礎 1. 臨床心理学の歴史を説明できる。 2. 臨床心理学の主要 4 領域を述べるができる。 3. 愛着について、説明できる。 4. 多職種連携にかかわる心理職（公認心理師・臨床心理士等）の職能について理解し、説明できる。 【ICT(WebClass)】

					事前学修：教科書 116～124 ページを読む。 事後学修：講義資料を復習する。 形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。
5/19	月	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	ストレスの心理学 1. ストレスの定義を述べることができる。 2. ストレスに関するところと身体の相関性を説明できる。 3. 心理的ストレスプロセスモデルについて説明できる。 【双方向授業】【ICT(WebClass)】 事前学修：現代人のストレスについて、インターネットで調べる。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。WebClass の#6 ワークに取り組む。
5/26	月	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	働くことの心理学 1. 職業性ストレスモデルについて説明できる。 2. バーンアウトについて説明できる。 3. ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。 4. ワークライフバランスについて、自身の意見を述べることができる。 【双方向授業】【ICT(Mentimeter, WebClass)】 事前学修：仕事におけるストレスについてまとめる。どういう職場環境で働きたいかまとめる。 事後学修：WebClass の#7 ワークに取り組む。講義資料を復習する。
6/2	月	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	思春期青年期の理解 1. 思春期と青年期の概念を理解し、述べることができる。 2. 青年期の発達課題を理解し、説明することができる。 3. アイデンティティの確立について理解し、これからの学生生活に活かせる視点を列挙することができる。 【双方向授業】 事前学修：教科書 126～130 ページを読み、まとめる。

					事後学修：講義資料を復習する。
--	--	--	--	--	-----------------

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	○
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	○
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	

・評価事項とその方法

総括評価：前期試験成績を 80%、講義中・後に実施するワーク（課題）への取り組みを 10%、確認テストの成績を 10%として評価する。前期試験は MCQ：多肢選択式問題と論述問題を出題する。ワーク（課題）への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「ワーク（課題）評価基準」に従い採点する。

形成的評価：5 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

学修事項	DP	中間試験	レポート	確認テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、2	1			3	10		ワーク類 1	14
3～8、 10、12	2			5	60		ワーク類 8	73
9、11	3			2	10		ワーク類 1	13
合計				10	80		10	100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	図説心理学入門 第2版	齊藤 勇（編）	誠信書房	2005
参	心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで	越智 啓太（編）	創元社	2016

・ 特記事項 ・ その他

【講義内容関連事項】

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果と解答は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学修内容を WebClass に入力する時間を設ける。事後学修については毎回配布される講義資料と教科書等を用いておこなうこと。

各回講義に対する事前学修の時間は 60 分間を要する。各回講義に対する事後学修の時間は 90 分間を要する。定期試験前には 9 時間の総復習の時間を確保する必要がある。

[事前学修・事後学修のポイント]

事前学修：次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。参考書、その他の資料に基づいた学修も推奨する。

事後学修：わからなかった内容は、講義にて示した教科書の該当箇所を確認し理解を深めること。また興味をもった箇所は図書館の文献などで調べること。

【試験や課題に対するフィードバック】

学生からの授業に対する意見や質問については、WebClass のメッセージから随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

定期試験後にフィードバックとして WebClass を通じた解説もしくは補講を実施する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

保健・医療・福祉・学校臨床現場での実務経験をもつ公認心理師・臨床心理士有資格教員が、心理学の知識の応用について、実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成